

宮古島市西原の秋の祭祀—ウカディダミグムイ

上原 孝三

1. はじめに

宮古島市平良字西原集落において、「ウカディダミグムイ（お風のための籠り）」祭が、2016年9月24日（旧暦8月24日）に行われた。ウカディダミニガイ（お風のための願い）ともいい、ユーグムイ（夜籠り）を伴う。ウカディダミグムイは春と秋に行われ、春は「ピーディンヌウカディダミグムイ」、秋は「ッサンシヌウカディダミグムイ」とそれぞれいう。

西原では村落レベル祭祀のユーグムイとしては、ウカディダミグムイの他に、ムッダミグムイ（麦のための籠り）、ウフユダミグムイ（大世のための籠り）、ンーダミ・ハナダミグムイ（芋のため・木綿花のための籠り）など四つの籠りがあるが、それらはそれぞれ春と秋に行われる。春は一晩籠るが、秋は二晩籠る。ユーグムイはそれら以外にはユークイ祭がある。

ウカディダミグムイ祭祀の目的は、主に以下の通りである。

- ①風が適度に吹くこと（風が全く吹かないと困るからである）。
- ②大風が吹かないように願う。
- ③部落民の安全祈願と健康祈願。

ウカディダミグムイは、毎年旧暦8・9月ごろに実施する。ウーンマ（大母）の生まれ年の干支に合わせて吉日を選ぶ。2016年は実施日が、9月24日（土）に当たっていた。

前日（23日）から祭祀用具・器具や供え物などを準備し、24日の午前7時頃からウーンマヤー（大母の家）で祭祀儀礼が始まり、場所をウハルディウタキに移し午後5時過ぎに終了した。

つまり、祭祀は約10時間に及んだ。祭祀の場所、祭祀儀礼の場所は二カ所。一カ所は、ウーンマヤー（大母の家）。もう一カ所は、村の御嶽ウハルディウタキ（大主御嶽）である。ウハルディウタキが主祭場となる。

祭祀への参加者は、神役を含めたナナムイヌンマ（七柱の母）である。

<参加女性>

- ・ナナムイヌンマ（七柱の母） 4人

神役 ウーンマ（大母）、アグシンマ（歌を謡う母）、ウーンマヌトゥム（大母の供）。マドゥパー（神役ではないナナムイヌンマ・七柱の母）。

*マドゥパーはマドゥンマ（マドゥ母）ともいう。

2. ウカディダミグムイ祭の準備—容器・供物など

ウカディダミグムイ祭には、ウーンマ・アグシンマ・ウーンマヌトゥムは、それぞれを準備しなければならないものがある。朝から御嶽に籠もるので、ウーンマは昼ご飯の弁当を注文する。

2-1 <神役が準備する物>

祭祀に用いる用具。米・塩・酒（泡盛）・芭蕉の葉・画仙紙（書道に用いる紙）などを準備する。

神役は米・塩・酒・線香などの分量や数を確認し、必要ならば買い出しに出かける。また、祭祀に必要な不可欠な祭祀用具・器具も点検する。祭祀に用いる用具・器具はウーンマヤーに保管してある。

2-1-1 <神役3人が準備する物>

名 称	数 量	用途、その他
マグ	1	下記の祭祀用具・器具を入れるもの
ヒム(紐)	6以上	カウを縛る
カンブン(神盆)	2	ウーンマとナカバイがそれぞれ一盆ずつ管理・担当する
ッスカニビン(白銀瓶)	4	カンブンに置く
ダイ(台)	2	カンブンに置く
ダイサカヂィヂィ(台盃)	4	ダイに置く
ハナマイ(上米。生米のこと)	適量	カンブンに置く
サキ(酒。泡盛)	適量	カンブンに置く
マース(塩)	適量	カンブンとカッサヌハーに置く
カッサヌハー(芭蕉の葉)	大1	マースを置く
カッサヌハー(芭蕉の葉)	小3	ハナマイやマースを置く
ナカジュフー(中造り)	1	中に酒を入れる
バカス(沸かし)	1	中に酒を入れる
トゥーイ	3	ウドゥヌの中の灯り
カミガマ	48	酒を入れる
サヂィ(タオル)	2・3枚	ナカジュフー・バカシィを包む
カウ	適量	イビ用も含む
白い紙	適量	足拭き用。新聞社よりもらう
水筒	1	カウなどで汚れた手を洗う

2-1-2 <ナナムイヌンマ個人が準備する物> *神役もナナムイヌンマ

名 称	数 量	用途、その他
カンヂィン(神衣。白い神衣装)	1	ウーンマのみ
ヂィーパ(簪)	1	ウーンマのみ
サナ(傘。黒いコウモリ傘)	1	ウーンマのみ
ウーンマヌトゥーイ(大母の灯り)	1	ウーンマのみ
カウ(香。線香)	人により異なる	ウマイ(御前。神柱のこと)と家族の人数分
ッティー(煙管)	1	煙草を詰める
ンマンナカ・タバク(煙草)	数本	ンマンナカキューイに用いる
カウチィチィ(香筒)	1	線香や煙管・煙草を入れる
煙草を入れる袋	1	煙管に紐で結びつける
画仙紙(白い紙)	10	ハナマイ・塩を置く
バッグ	1	祭祀に用いる品物を入れる
お菓子	適量	祈願後にお互い交換仕合い食べる
飲み物(栄養ドリンク)	適量	個人の好みによる
簡易雨合羽	1	雨に備える

2-2 <字長が準備する物>

字長はウカディダミグムイ祭祀に向け、おにぎり、サツマイモの葉、和え物、水など必要な品を揃える。字長がウハルジユタキに持参するのは、トゥユンナカマチィ(旧公民館)からの提供ということで、ウフユ(大世。おにぎり)とブータナマシィ(サツマイモの葉などの和え物)である。

3. 祭祀の過程—祭祀の概略

ツサンシィ(秋)の「ウカディダミグムイ」は、本来2日間に亘って行われた。8年前までは、1日目にナナムイヌンマ(七杜の母)はウハルジユタキ(大主御嶽)に夕方6時頃に集合し、ユグムイを行った。一般のナナムイヌンマは、夜1時頃に家に帰った。

ハナムンマ5人はそのままウタキに残り、1泊して祈願し、2日目の午後に帰宅した。現在では1日で終了する。しかも朝から行う。

ウカディダミ祭祀は、ウーンマヤーから始まり、ウハルジユタキカ所の御嶽で祈願し、再びウーンマヤーに戻る。ウカディダミ祭祀は、ウタキ内では静かにし、物音を立てないようにする。

ウハルジユタキでの祈願は、概略以下の通りである。5回香炉の砂を代え、5回香炉に線香を立てる。

- 1, ブンビシ
- 2, ユーツフィ ニガイ
- 3, アキドゥラ ニガイ
- 4, カサンブン ニガイ
- 5, クムイヌ フチィ

ユグムイのアーグは、「ユーツフィ ニガイ」と「アキドゥラ ニガイ」の間に謡われる。ユグムイ歌は8首であるが、祭祀全体では10首になる。ウカディダミニガイでは歌謡に伴う手

拍子や踊りは行わない。挙措を静かにし、荒立てないようにする。

1, <祭祀儀礼場所①> 朝7時頃 ウーンマヤー(大母家)の二番座敷。

午前7時。本日用いる、ムッス・カンブンなど祭祀用具をすぐ持ち出せるよう玄関口に置く。早朝から雨なので荷物はビニール袋(ゴミ袋)で包む。今日はナナムイヌンマ4人とともに着物姿。ウーンマは既にカンヂィン(神衣)を着ている。

午前7時4分。家における祭祀では、チャーユーイ(お茶祝い)から始まる。仏壇のある2番座で、湯飲み茶碗を両手に持ち、ウーンマとアーグシィンマが、「タウテー」(尊い)と発語してから一口飲み、それぞれ独り言をいように小声で祭祀の開始報告と目的達成と無事終了の祈願詞を唱える。お茶を飲む行為をチャーユーイ(お茶祝い)という。祈願中の願いの言葉をフチィユン(口誦み)と称す。

午前7時5分頃。祈願が終了すると、神役3人は手分けして祭祀に用いる用具や供物、重箱などを乗用車に積む。

乗用車を運転するのはアーグシィンマ。ウーンマは助手席に乗る。ウーンマヌトゥムは後部座席と決まっている。荷物の確認をしてウハルジユタキへ向け出発する。ウハルジユタキはウーンマヤーから徒歩でも3分程度の距離である。

2, <祭祀儀礼場所②> ウハルジユタキ(大主御嶽) 午前7時7分頃～午後5時

「ウタキ入り口」(鳥居の前)

午前7時10分頃。ウハルジユタキ到着。車から降りると、祭祀用具と個人の荷物を降ろす。それからウタキ入り口に4人は横一列

に並ぶ。ウタキに向かい、左側から右へ、ウーンマ、アークシィンマ、ウーンマヌトゥム、マドゥパーの順である。全員お拝み手をする。

ウーンマは右側の門柱の所へ行き、膝を曲げて拝み手をし、続いて左側の門柱へも同じ行為をする。門の神への挨拶だという。他の3人もウーンマと同じようにする。

午前7時12分頃。ウーンマを先頭に荷物を持ってウタキへ入る。荷物はウドゥヌ(御殿)の中へ入れる。すぐに、履き物を脱ぎ裸足になる。

「サウヂィ」(掃除) 掃除の場所・区域はイビからミャーナカ(庭中。神庭)

午前7時13分頃。4人はウドゥヌからミャーナカへ行き、イビに向かってしゃがむ。ウーンマから先に拝み手をして軽く頭を下げる。他の3人も同様にする。すぐにウドゥヌ内に引き返し、ツジュ(地炉)にも拝み手をする。他の3人の女性も全員ウーンマに倣う。

女性参加者全員(4人)で掃除をする。ウーンマはイビとその周辺を手で木の葉やゴミを拾いきれいにする。アークシィンマは、イシィヌウヤ(石の親)、ミヂィヌヌシィ(水の主)のイビとその周辺をきれいにし、ウドゥヌの北側から水タンク辺りまでを清掃する。

神役ではないマドパーは、ウドゥヌの南側からウドゥヌの出入り口辺りまで、竹箒を用い清掃する。枯れ葉などは灯籠を過ぎた辺りの右側に捨てる。掃除が終わるとブンビシをする。

「カウル ウッチャシィ」(香炉の移動)

7時15分頃。クムイやカンニガイはウドゥヌの中で行う。ミャーナカには、祠の側からウーンマガウル(大母香炉)、ナカバイガウル(中栄え香炉)、アークシィンマヌトゥム

ヌカウル(歌を謡う母の供の香炉)、ウーンマヌトゥムヌカウル(大母の供の香炉)が据えてあるので(アークシィンマのカウルはない)、ウドゥヌの中に順次移した。カウルを落としたり割ったりすると大変なことになるので、慎重に移動する。ヤカヂィヤーヌカウル(家数の香炉。砂香炉)は、普段はアークシィンマヌトゥムヌカウルの隣になるが、ウドゥヌ西側出入り口の砂の香炉である。

「ブンビシ」(盆居せ) ウハルヂィウタキのウドゥヌ内

7時20分頃。ウーンマ・アークシィンマ・ウーンマヌトゥムは、ムッス(筵)を敷きカンブン置き、米・塩・酒などの供物を並べる。この行為をブンビシ(盆居せ)という。

「カウを束ねる」

ウーンマは各人が持ってきたカウ(香。線香)を集め、束にする。カウはウーンマの前に置く。神役の分のカウは別に束ね、ウーンマの前に置く。アキドゥラニガイのカウの束はウドゥヌの出入り口付近に置く。

「ンマンナカユーイ」(煙草祝い)

ブンビシを終えると、ウーンマ・アークシィンマ・ウーンマヌトゥムは正座し頭を軽くさげる。ツティー(煙管)にンマンナカ(タバコのことを御嶽内ではンマンナカと称す)1本を詰め、ウーンマ・アークシィンマの2人はそれぞれ自分で煙草に火を付ける。一口吸うと、ウーンマとアークシィンマはそれぞれのツティーを交換する。交換したら一口吸う。

ウーンマとアークシィンマのツティーは参加者に回される(参加者全員が順次手に取る)。最後に手に取る人は、煙草を煙管から取り席の傍に置く。煙管はウーンマとアークシィン

マに返される。

ンマンナカキューイを終えると、ウーンマの
「アハラギ オーバータ カギアヤグー
カナイー フィーサマティ」(美人なお婆さ

ん達、美しい歌を謡ってください)

という言葉で、ウハルジウタキ(大主御嶽)
の「ブンビシブドゥイ(盆居せ踊り)」を謡う。

ウハルジウタキ(大主御嶽)のブンビシブドゥイ(盆居せ踊り)

1, どうゆたがきゅーぬ

は一たがきゅーぬ ゆらまいやよー

にがいゆあがらさ

ただしんがみゃー

あつほぢいんな

するままんよー

にがいゆあがらさ

2, かんむどう なーぎー

やぐみゃー なーぎー

なやぎゅーとうい

にがいゆあがらさ

がんにじゅうさうまい

どうゆじゅーさうまい

ぶいでいすは一たーよー

にがいゆあがらさ

ちいむすり んみすり

やぐみゅー なーぎゅーらー

にがいゆあがらさ

3, うはるぢいがなつすどう

かんばなう とうゆましゅーら

にがいゆあがらさ

うはるぢい がなしいぬどう

うーみゆきばい ふやぐみやらまいば

にがいゆあがらさ

にがいまにゃーんどう

うみゆきまにゃーんどう

たしいきやふいさまいよー

ちいむすり んみすり

やぐみゅー なーぎゅーらー

やぐみゃー なーぎー

かんばな とうゆまさ

自分たちの今日の

姥達の今日の 寄り合いは

願いを揚げよう

只では

<未詳>には

揃わないよ

願いを揚げよう

神を 名揚げ

神を 名揚げ

名揚げていて

願いを揚げよう

頑丈さをも

身体強さをも

祝おうお婆さん達

願いを揚げよう

肝を揃え 胸を揃え

神を 名揚げていよう

願いを揚げよう

大主加那志を

神上(最高神)を 鳴響まそう

願いを揚げよう

大主加那志が

お見受け栄え 大神であられるので

願いを揚げよう

願ったように

お見受けしたように

助けてくださる

肝を揃え 胸を揃え

神を 名揚げていよう

神を 名揚げ

神上(最高神)を 鳴響まそう

1 節目から3 節目までを参加者全員で座ってうたう。手拍子も踊りもしない。但し、囃子の「ニガイユアガラサ」は、1 節目をウーンマ、2 節目をアーグシィンマ、3 節目をウーンマヌトウムがそれぞれ立ったまま謡う。

ウーンマヌトウムは歌が終わると振り返り、
「アハラギオバータ カギガウ チィキ
アグ カナイー フィーサマティ」(美しい
お婆さん達 香に火を付けてください)

という。

ウドウヌの外(ミャーナカの左側)にあるシィン(下)という場所でカウに火をつける。ウーンマがウーンマガウル、ナカバイガウル、アーグシィンマヌトウムヌカウル、ウーンマヌトウムヌカウル、ヤカヂィヤーの順で、燃えたカウを据える。ウーンマヌトウムは、シィンの辺り

で水筒を持ち、ウーンマを待つ。ウーンマが手を差し出すと、ウーンマヌトウムは水筒の水を掛ける。ウーンマの手はカウや砂で汚れているからである。

ウーンマがカウを据え、自分の座る場に戻り正座すると、

「アハラギ オバータ カギアヤグー
カナイー フィーサマティ」(美人なお婆さん達、美しい歌を謡ってください)

という言葉で、「タビハイヌアーグ」を謡う。「タビハイヌアーグ」以降は、少々の休み時間を挟んで、7 首の歌を謡い続ける。午前10 時頃から謡い始めて、少々の休憩時間を挟み午後1 時23 分まで謡い続けた。

ウカディダミグムイには、全歌手拍子を打たず、踊りも行わない。

1, タビハイヌアーグ(旅栄えのアーグ)

- | | |
|--|--|
| <p>1, たうとよーい(囃子。以下、*で示す)
たびはいぬ かんむどう なーぎょー
かぎさー(囃子。以下、**で示す)
あやぐやひー
なーぎょー(囃子。以下、***で示す)</p> <p>2, * ふなばいぬ やぐみゅーどう なーぎょー **
いちゅなしえー ***</p> <p>3, * ばきたいぬ **
くぬうどうしん そるまいや ***</p> <p>4, * ただしんな
あちいほじいんな ** するままんよ ***</p> <p>5, * かぎびゅーいや まいぬあら **
ゆしゅーとうい ***</p> <p>6, * かぎびゅーい かんびゅーい **
ういから ***</p> <p>7, * ていだななちい うりななちい **
どうちいから ***</p> <p>8, * くむいじゃーや しいたていじゃーや **
ゆーあぎゅーり ***</p> <p>9, * くむいじゃーや したていじゃーや **
ういから ***</p> <p>10, * かぎどうーいや びしなうし **
がりゅーとうい ***</p> | <p>尊い
旅栄えの 神を 名揚げよう
美しさ
歌を謡い
名揚げよう
船栄えの 神を 名揚げよう
糸音をして
私たちの
この年に 揃うのは
只では
(未詳) 揃わない
美しい日選り 米の殻
寄せていて
美しい日選り 神の日選り
上から
太陽七つ 下り七つ
時から
籠もり座は 仕立て座は
よく上げていて
籠もり座は 仕立て座は
上から
美しいトゥーイを 居せ直し
着飾っていて</p> |
|--|--|

- 1 1, * うふじいかさ しいまぬはな **
うとうむしえー ***
- 1 2, * うりじゃしいや しいまぬに一や **
びしゅーとうい ***
- 1 3, * うとうむたや うとうむかぎ **
がーりゅーとうい ***
- 1 4, * うやんまた なみかぎさ **
するーまい ***
- 1 5, * いちいぬていぬ まりなうしい **
あがりやが ***
- 1 6, * にがやたや なみかぎさ **
がーりゅーとうい ***
- 1 7, * やかぢいやー きゅーかぢいぬ **
ういから ***
- 1 8, * がうどうりゃぬ ゆしなうし **
がーりゅーとうい ***
- 1 9, * くさきなーぬ びしなうし **
がーりゅーとうい ***
- 2 0, * むむたていぬ ななそく **
うふゆーばー ***
- 2 1, * とうゆていはだ たらいはだ **
ふしやんな ***
- 2 2, * くがなたや かぎでいんな うき **
ふしやんな ***
- 2 3, * かんむなーぎ やぐみゅーなーぎ **
がーいすやー ***
- 2 4, * にがいまにやーん うみゆきまにやーん **
たしいきやふいさまでい ***
- 2 5, * あがいていだ うすいうや **
うみゆぶき ***
- 2 6, * んまでいだぬ むちゃぎびーぬ **
うみゆぶき ***
- 2 7, * うばるじいぬ かんばなう **
とうゆまさ ***
- 2 8, * ないかにが うちやうぬしい **
なやぎゅーら ***
- 2 9, * ばかぼうが んぬちいぬしい **
なやぎゅーら ***
- 3 0, * んまぬはぬ うふゆぬしい **
なやぎゅーら ***
- 3 1, * ひやぢいがん だやぢいぬしい **
なやぎゅーら ***
- 3 2, * ういらむい ういかぬしい **
なやぎゅーら ***
- 3 3, * なつうゝあがん ていつうゝあぬしい **
なやぎゅーら ***
- 大司は 村の上
お供をして
下り佐司は 島の根は
居せていて
お供達は お供美しさ
着飾っていて
親母達 並び美しさ
揃われ
いつの年の 生まれ直し
上がる者が
願う人たちは 並び美しさ
着飾っていて
屋敷家は 戸数の
上から
合取り 寄せ直し
着飾っていて
これほどの 居せ直し
着飾っていて
百立ての 七底の
大世を
十年分 足りる分
欲しさに
子ども達は 美しい金は受け
欲しさに
神を名揚げ 神を名揚げ
着飾るのは
願ったように お見受けしたように
助けてくださるので
東太陽 被う親の
お陰で
母太陽 (月) の 持ち上げ部
お陰で
大主の 最高神を
鳴響まそう
ナイカニの 御帳簿主を
名揚げよう
若王の 生命の主を
名揚げよう
午の方の 大世主を
名揚げよう
比屋地神 畑の神を
名揚げよう
ウイラ杜 大漁の神を
名揚げよう
ナツヴァア神 ティツヴァア主を
名揚げよう

- | | | |
|-------|---------------------|--------------|
| 34, * | じゃらがんみ いちゆぬぬしい ** | ジャラガ嶺 糸音の主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 35, * | びぬはしゆーぬ いちいぬぬしい ** | 亥の方主 風の神を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 36, * | やまとうがん うじゃきぬしい ** | 大和神 お酒主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 37, * | うふやいま はなぬぬしい ** | 大八重山 端の主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 38, * | おーみかみ あみぬぬしい ** | 大御神 雨の主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 39, * | なかどうらぬ ことなうい ** | 中取りの 事直りを |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 40, * | まいやまぬ うふやぐみ ** | 前山の 大神を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 41, * | うっちいきぬ あぢいぬしゆーゆ ** | ウッチィキの 按司の主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 42, * | びっしむい かりゆーしいぬしい ** | 広瀬杜 嘉例吉主を |
| | なやぎゆーらよ *** | 名揚げよう |
| 43, * | しらかぶーぬ くみぬぬしい ** | 白川湾の 米の主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 44, * | にしびしゆーぬ うふやぐみゆー ** | 西銘主 大神を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 45, * | あがいじゃーぬ うふやぐみゆー ** | 東座の 大神を |
| | なやぎゆーらよ *** | 名揚げよう |
| 46, * | うふやえま うむとうがん ** | 大八重 オモト神を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 47, * | うふとうがん うふやぐみゆー ** | 大渡神 大神を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 48, * | かぎはまぬ うふやぐみゆー ** | 美しい浜の 大神を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 49, * | いちいちいむいぬ まんちいぬしい ** | 五つ杜の 真道主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 50, * | んちいだちいぬ うふやぐみゆー ** | 道立ての 大神を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 51, * | うふらだちい やまとうがん ** | 大浦村 大和神を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 52, * | とうくがーんみ いちいぬぬしい ** | トゥクガー嶺の 風の主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 53, * | とうゆんみゃーぬ きんみぬしい ** | 鳴響む庭の 斤目主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 54, * | とうぬはしゆー きんくぬしい ** | 殿の方の主 金庫主を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 55, * | とうくぬぬしい ふだみびーゆ ** | 所の主 踏み鎮め部を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |
| 56, * | かぎみぢいぬ うふやぐみゆー ** | 美しい水の 大神を |
| | なやぎゆーら *** | 名揚げよう |

2, カンナーギアーク (神名揚げアーク)

- | | | |
|-----|---|--|
| 1, | かんむ なぎやー
きゅーだらよー
ほーい (囃子。以下、*で示す)
やぐみゅー なぎやー
にがいゆ あがらさ (囃子。以下***で示す)
なまだらよー
ちゅらよー (囃子。以下***で示す) | 神を 名揚げるのは
今日だよ
ホーイ
神を 名揚げるのは
願いを 揚げよう
今日だよ
清よら |
| 2, | きゅーぬひーや くがにびやー *
なまぬひーや ** なむじゃびやー *** | 今日の日は 黄金日よ
今日の日は 銀日よ |
| 3, | くがにとうどう たちゅでいよ *
なむじゃとうどう ** たちゅでい *** | 黄金と 譬えよう
銀と 譬えよう |
| 4, | ばかそーうちい ていーゆすだき *
あとうなうりや ** えちいえちい *** | 若 (未詳) 手を添えるだけ
後稔り 悦々よ |
| 5, | くがにやーうじい ていーゆすだき *
そらひるげ ** えちいえちいよ *** | 黄金扇 手を添えるだけ
末広がり 悦々よ |
| 6, | あとうゆなうりや えちいえちいよ *
そらひるげ ** えちいえちい *** | 後世稔り 悦々よ
末広がり 悦々よ |
| 7, | あがいていだがなつす なやぎゅーら *
うすいうや ** とうゆまさ *** | 東太陽加那志を 名揚げよう
被う親 鳴響まそう |
| 8, | んまていだがなつす なやぎゅーら *
むちやぎびーゆ ** なやぎゅーら *** | 母太陽加那志を 名揚げよう
持ち上げ部を 名揚げよう |
| 9, | うはるぢいがなつす なやぎゅーら *
かんばなう ** とうゆまさ *** | 大主加那志を 名揚げよう
最高神を 鳴響まそう |
| 10, | うふないかにうどう なやぎゅーら *
うちやうぬしい ** なやぎゅーら *** | 大ナイカニを 名揚げよう
御帳簿主 名揚げよう |
| 11, | ばかぼうがなつす なやぎゅーら *
んぬちいぬしい ** なやぎゅーら *** | 若王加那志を 名揚げよう
生命の主を 名揚げよう |
| 12, | んまぬはんな うらまいよ *
うふゆーぬしい ** なやぎゅーら *** | 午の方に おられる
大世主を 名揚げよう |
| 13, | ひやぢいがん なやぎゅーら *
だやぢいぬし ** なやぎゅーら *** | 比屋地神を 名揚げよう
畑の神を 名揚げよう |
| 14, | ういらむい うらまい *
ういかぬしい ** なやぎゅーら *** | ウイラ杜に おられる
大漁の主を 名揚げよう |
| 15, | なつう ^ゝ あぬかんむどう なやぎゅーら *
ていつう ^ゝ あぬしい ** なやぎゅーら *** | ナツヴァの神を 名揚げよう
ティツヴァ主 名揚げよう |
| 16, | じゃらがんみ うらまい *
いちゅぬぬしい ** なやぎゅーら *** | ジャラガ嶺に おられる
糸音の主を 名揚げよう |
| 17, | びぬはしゅーゆどう なやぎゅーら *
いちいぬぬしい ** なやぎゅーら *** | 亥の方の主を 名揚げよう
風の神を 名揚げよう |
| 18, | やまとうぬかんむどう なやぎゅーら *
うじゃきぬしい ** なやぎゅーら *** | 大和の神を 名揚げよう
お酒の主を 名揚げよう |
| 19, | うふやえま うらまい *
はなぬぬしい ** なやぎゅーら *** | 大八重山に おられる
端の主を 名揚げよう |
| 20, | おーみかみがなつす なやぎゅーら * | 大御神加那志を 名揚げよう |

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| あみぬぬしい ** なやぎゅーら *** | 雨の主を 名揚げよう |
| 21, なかどうらんな うらまい * | 中取りに おられる |
| ことなうい ** なやぎゅーら *** | 事直り 名揚げよう |
| 22, まいやまんな うらまい * | 前山に おられる |
| うふやぐみ ** なやぎゅーら *** | 大神を 名揚げよう |
| 23, うっちいきんな うらまい * | ウツヂイキに おられる |
| あぢいぬしゅーゆ ** なやぎゅーら *** | 按司の主を 名揚げよう |
| 24, びっしむい うらまい * | 広瀬杜に おられる |
| かりゅーしいぬしい ** なやぎゅーら *** | 嘉例吉の主を 名揚げよう |
| 25, しらかぶーんな うらまい * | 白川湾に おられる |
| くみぬぬしい ** なやぎゅーら *** | 米の主を 名揚げよう |
| 26, にしびしゅーゆどう なやぎゅーら * | 西銘主を おられる |
| うふやぐみゅー ** なやぎゅーら *** | 大神を 名揚げよう |
| 27, あがいじゃーんな うらまい * | 東座に おられる |
| うふやぐみゅー ** なやぎゅーら *** | 大神を 名揚げよう |
| 28, うふやえま うらまい * | 大八重山に おられる |
| うむとうがん ** なやぎゅーら *** | オモト神を 名揚げよう |
| 29, うふとうぬかんむどう なやぎゅーら * | 大渡の神を 名揚げよう |
| うふやぐみゅー ** なやぎゅーら *** | 大神を 名揚げよう |
| 30, かぎはまんな うらまい * | 美しい浜に おられる |
| うふやぐみゅー ** なやぎゅーら *** | 大神を 名揚げよう |
| 31, いちいちむい うらまいよ * | 五つ杜に おられる |
| まんちいぬしい ** なやぎゅーら *** | 真道主を 名揚げよう |
| 32, んちいだちいんな うらまい * | 道立ちに おられる |
| やまとうがん ** なやぎゅーら *** | 大和神を 名揚げよう |
| 33, うふらだちい うらまい * | 大浦村に おられる |
| まんちいぬしい ** なやぎゅーら *** | 真道主を 名揚げよう |
| 34, とうくがーんみんな うらまい * | トゥクガー嶺に おられる |
| いちいぬぬしい ** なやぎゅーら *** | 風の神を 名揚げよう |
| 35, とうゆんみやーんな うらまい * | 鳴響む庭に おられる |
| きんみぬしい ** なやぎゅーら *** | 斤目主を 名揚げよう |
| 36, とうぬはしゅーゆ なやぎゅーら * | 殿の方の主 名揚げよう |
| きんくぬしい ** なやぎゅーら *** | 金庫主を 名揚げよう |
| 37, とうくぬぬかんむどう なやぎゅーら * | 所の神を 名揚げよう |
| ふだみびーゆ ** なやぎゅーら *** | 踏み鎮め部を 名揚げよう |
| 38, かぎみぢいんな うらまい * | 美しい水に おられる |
| うふやぐみゅー ** なやぎゅーら *** | 大神を 名揚げよう |
| (曲変わる) | |
| 39, どうぬきゅーぬ ふからしゃやー | 自分たちの 今日の 誇らしさは |
| ぬゆにじゃーな たちゅがー | 何に 譬えようか |
| よーいよなー | よーいよなー |
| くがにとうどう たちゅでい | 黄金と 譬えよう |
| なむじゃとう たちゅでい | 銀と 譬えよう |
| はいよさんなー すろいと | はいよさんなー 揃いと |
| よーいよなー | よーいよなー |
| さささー やぐみゅー なーぎでい | さささー 神を 名揚げよう |

上記の歌を全員座したまま謡う。ツティー(煙 謡う。
管)を両手の親指と人指し指の間に乗せ(挟み)

3, ハーニパーヌアーグ (大姉姥のアーグ)

- 1, どうゆたがきゅーぬ ゆらまいや
んまたがきゅーぬ
あはらぎは一た するまいや
やいやーていーどうー (囃子。以下*で示す)
はやしや ういどー
ただしんがみゃー
あしいほじいんな するままん
は一たーよ
じょーはい は一た
やぐみゅー なーぎでい
かぎさよー かぎさ (囃子。以下**で示す)

- 2, かんむどう なーぎー
なやぎやうとういどう
かんばなぬ やぐみゅー
あはらぎは一た なやぎやうとういどう

*
がんじゅーさうまい
どうゆじゅーさうまい ぶいでいしい
は一たー
じょーはい は一た
やぐみゅー なーぎでい

- **
3, うばるじいになつすどう
なやぎやうとういどう
かんばなぬ やぐみゅー
あはらぎは一た
とうゆましゅーとうい

*
がんじゅーさうまい
どうゆじゅーさうまい ぶいでいしい
は一たー
やぐみゃーなーぎー
かんばなう とうゆまさ

- **
4, うばるじいになすぬどう
にがいばい うみうきばい
ふやぐみ やらまいば

*
にがいまにゃーんどう
うみきまにゃーんどう
ふやぐみたが
たしいきやふいさまいば

自分たちの今日の 寄り合いは
母たちの今日の
美しい姥たち 揃うのは
やいやーていーどうー
囃子は それだよ
只では
(未詳)には 揃わない
姥たち
さあ 姥たち
神を 名揚げよう
美しさよ 美しさ
神を 名揚げ
名揚げていて
最高神の 神を
美しい姥たち 名揚げていて

*
頑丈さをも
体強さをも 祝おう
姥たち
さあ 姥たち
神を 名揚げよう

**
大主加那志
名揚げていて
最高神の 神を
美しい姥たち
鳴響ましていて

*
頑丈さをも
体強さをも 祝おう
姥たち
神を 名揚げ
最高神を 鳴響まそう

**
大主加那志が
願え栄え お目受け栄え
神 であられるので

*
願ったように
お目受けしたように
大神たちが
助けてくださるので

うみきまにやーんどう
にがいまにやーんどう
ふやぐみたが たしいきやふいさまいば
ありばよ かんていー
ありば やぐむていー
たかびやうらよ は一た一
じょーはい は一た
かんばなう とうゆまさ

**

- 5, ばんていが んまがどう
むむいが しいたんどう
あはらぎ は一た
むちゆいんからよ

*

かぎななむいとうどう
よはえるていーどう
なしうかまいよ は一たよ
かぎななむいゆばー
うやちいちい んまちいちい
つぶあんな ちいぎゆーとうい
んまがに一たん ゆちいぎやうとういどうよ

*

むむだいがみまい
せんだいがみまい かぎななむいゆどう
ゆーちいがしゆーらよ

**

- 6, きゆーがゆーぬ
ゆぬあきいーきや
あちやぬ ていだがなすぬ
あはらぎ は一た
あがらまいきやーよ

*

かぎあやぐやひーどう
かぎぶどういやひーどう
やぐみゆーどう なーぎゆーらよ
ちいむすり んみすり
やぐみゆー なーぎでい

**

- 7, きゆー みーりばまい ゆぬかぎさ
あちや みーりばまい
あはらぎは一た ゆぬちゆらさ

*

ゆぬかぎさ
ゆぬちゆらさ
ななむいぬ は一た一
じょーはい は一た

お目受けしたように
願ったように
大神たちが 助けてくださるので
有れば 神と
有れば 神と
崇べていよう 姥たち
さあ 姥たち
最高神を 鳴響まそう

**

私たちの 母が
お腹の 下に
美しい 姥たち
持っていた頃から

*

美しい七杜と
世映えろと
産んでおかれた 姥たち
美しい七杜は
親継ぎ 母継ぎ
子には 継いでいて
孫の根たちに 世継ぎをしていて

*

百代までも
千代までも 美しい七杜は
世継がしていよう

**

今日の日の夜の
夜が明けるまで
明日の 太陽加那志
美しい 姥たち
昇るまで

*

美しい綾語をして
美しい踊りをして
神を 名揚げよう
肝を揃え 胸を揃え
神を 名揚げよう

**

今日みても 同じ美しさ
明日みても
美しい姥たち 同じ美しさ

*

同じ美しさ
同じ美しさ
七杜の 姥たち
さあ 姥たち

- やぐみゆー なぎでい
**
- 8, とくかゆーかぬ
うちいちいぬ にやーん
じゅーぐにちいぬ
あはらぎは一た
うちいちいぬ にやーんどうよ
*
あがいかぎ ぬゆいちゆら
ななむいぬ あはらぎ
は一た
じょーはい は一た
やぐみゆー なぎでい
**
- 9, んきやんきやぬ はだんからどう
せんぷちいぬ
あはらぎは一た はだんからどうよ
*
かぎななむいとどう
よはえるていーどう
たくりやー うらよー は一たよ
かぎななむいゆばー
うやちいちい んまちいちい
つぶあんな ちいぎゆーとうい
んまがに一たん ゆちいぎやうとういどうよ
*
むむだいがみまい
せんだいがみまい かぎななむいゆどう
ゆーちいがしゆーらよ
ちいむすり んみすり
やぐみゆー なぎでい
**
- 10, うながいなきやどう
まちいんにや まちゆたい
あはらぎ は一た
くとうしいぬ かぎうどうしいんよ
*
かぎいんぎよーていどう
ふやぐみたーが
たしいきやふいさまいばよー
かぎいんぎよーぬ かぎあやうばー
うやちいちい んまちいちい
つぶあんな ちいぎゆーとうい
んまがに一たん ゆちいぎやうとういどうよ
*
むむだいがみまい
- 神を 名揚げよう
**
十日四日の
お月のように
十五日の
美しい姥たち
お月のように
*
上がる美しさ 昇る美しさ
七杜の 美しい
姥たち
さあ 姥たち
神を 名揚げよう
**
昔々の 頃から
千祖父の
美しい 姥たち
*
美しい七杜と
世映えろと
企んで いよう 姥たち
美しい七杜は
親継ぎ 母継ぎ
子には 継いでいて
孫の根たちに 世継ぎをしていて
*
百代までも
千代までも
世継がしていよう
肝を揃え 胸を揃え
神を 名揚げよう
**
こんなに長くなるまで
待ちに待っていた
美しい 姥たち
今年の 美しい御年に
*
美しい隠居だと
大神たちが
助けてくださるので
美しい隠居の 美しい綾は
親継ぎ 母継ぎ
子には 継いでいて
孫の根たちに 世継ぎをしていて
*
百代までも

せんだいがみまい かぎななむいゆどう
ゆーちいがしゅーらよ
かぎいんぎょーぬ かぎあやうばー
うとうがまばーたんかいまい
あはらぎ は一た ちいぎゅーとうい

*

とうしいかぢい はだかぢいぬ
かぎいんぎょーゆどう
ゆーちいがしゅーらよ
じょーはい は一た
やぐみゅー なーぎでい

**

1 1, とうかゆーかぬ
うちいちいぬ にゃーん
じゅーぐにちいぬ
あはらぎは一た
うちいちいぬ にゃーんどうよ

*

あがいかぎ ぬゆいちゅら
ななむいぬ あはらぎ
は一た
じょーはい は一た
やぐみゅー なーぎでい

**

1 2, んきゃんきゃぬ はだんからどう
せんぷぢいぬ
あはらぎは一た はだんからどうよ

*

かぎななむいとうどう
よはえるていーどう
たくりやー うらよー は一たよ
かぎななむいゆばー
うやちいちい んまちいちい
つふあんな ちいぎゅーとうい
んまがにーたん ゆちいぎやうとういどうよ

*

むむだいがみまい
せんだいがみまい かぎななむいゆどう
ゆーちいがしゅーらよ
ちいむすり んみすり
やぐみゅー なーぎでい

**

1 3, あがいていだがなつすどう
なやぎやうとういどう
かんばなぬ やぐみゅー
あはらぎは一た とうゆましゅーとうい

千代までも 美しい七杜
世継がしていよう
美しい隠居の 美しい綾は
愛しい妹たちへ
美しい 姥たち 継いでいて

*

年数 時代数の
美しい隠居を
世継がしていよう
さあ 姥たち
神を 名揚げよう

**

十日四日の
お月のように
十五日の
美しい姥たち
お月のように

*

上がる美しさ 昇る美しさ
七杜の 美しい
姥たち
さあ 姥たち
神を 名揚げよう

**

昔々の 頃から
千祖父の
美しい姥たち 頃から

*

美しい七杜と
世映えろと
企んで いよう 姥たち
美しい七杜は
親継ぎ 母継ぎ
子には 継いでいて
孫の根たちに 世継ぎをしていて

*

百代までも
先代までも
世継がしていよう
肝を揃え 胸を揃え
神を 名揚げよう

**

東太陽加那志を
名揚げていて
最高神の 神を
美しい姥たち 鳴響ましていて

*
 がんじゅーさうまい
 どうゆじゅーさうまい ぶいでいしい
 はーたー
 やぐみゃーなーぎー
 かんばなう とうゆまさ
 **
 14, んまていだがなっす
 なやぎやうとういどう
 かんばなぬ やぐみゅー
 あはらぎはーた とうゆましゅーとうい
 *
 かぎななむいゆばー
 うやちいちい んまちいちい
 つふあんな ちいぎゅーとうい
 んまがにーたん ゆちいぎやうとういどうよ
 じょーはい はーた
 やぐみゅー なーぎでい
 **

*
 頑丈さをも
 体強さをも 祝おう
 姥たち
 神を 名揚げ
 最高神を 鳴響まそう
 **
 母太陽加那志を
 名揚げていて
 最高神の 神を
 美しい姥たち 鳴響ましていて
 *
 美しい 七杜を
 親継ぎ 母継ぎ
 子には 継いでいて
 孫の根たちに 世継ぎをしていて
 さあ 姥たち
 神を 名揚げよう
 **

ハーニパー（大姉姥）であるウーンマとアー
 グシィンマが謡う。囃子は、残りの二人が謡う。

「ハーニパーヌアーク」の奇数の節はウーンマ
 が謡い、偶数の節はアークシィンマが謡う。

4, ドウユタガ キューヌ ユラマイヤ（自分たちの今日の寄り合いは）

1, どうゆたが きゅーぬ
 はーたが きゅーぬ するまいや
 にがいゆあがらさ（囃子。以下*で示す）
 ただしんがみゃー
 あちいほじいんな するままんよ
 にがいゆあがらさ（囃子。以下**で示す）
 ちいむすり んみすり
 やぐみゅー なーぎゅーらー
 やぐみゃー なーぎー
 かんばなとうゆまさ
 2, かんむどう なーぎー
 やぐみゃー なーぎー なやぎゅーとうい
 *
 がんじゅーさうまい
 どうゆじゅーさうまい ぶいでいしい
 はーたー
 **
 3, うばるじいがなっすどう
 かんばなう とうゆましゅーら
 *
 うばるじいがなっすぬどう

自分たちの 今日の
 姥たちの 今日の 揃うのは
 願いを揚げよう
 只では
 （未詳）揃わない
 願いを揚げよう
 肝を揃え 胸を揃え
 神を 名揚げよう
 神を 名揚げ
 最高神を 鳴響まそう
 神を 名揚げ
 神を 名揚げ 名揚げていて
 *
 頑丈さをも
 体強さをも 祝おう
 姥たち
 **
 大主加那志を
 最高神を 鳴響まそう
 *
 大主加那志は

にがいばい うみうきばい
ふやぐみ やらまいば

*

にがいまにやーんどう
うみきまにやーんどう
たしいきやふいさまいよ

**

- 4, うながいないきやどう
まちいんなまちゆたい
くとうしいぬ かぎうどうしいんよ
かんばなとうゆまさ
かぎいんぎょーていどう
ふやぐみたーが
たしいきやふいさまいよー
かんばなとうゆまさ
かぎいんぎょーぬ かぎあやうばー
うとうがまたんかい ゆちいぎゅーらでい
うっちゃし うっちゃし
むむだいがみまい
せんだいがみまい かぎななむいゆどう
ゆちいぎゅーらでい
うっちゃでい うっちゃでい
かぎいんぎょーぬ かぎあやうばー
うとうがまたんかいまい ゆちいぎゅーらでい

**

- 5, だんだん あがいぬ
かぎ いわい

*

**

- 6, きゅーがゆーぬ
ゆぬあきいーきや
あちやぬ ていだぬ
あがらまいきやー
*
かぎあやぐやひー
かぎぶどういやひー
やぐみゅー なーぎゅーら
**

- 7, とうかゆーかぬ
うちいちいぬ にやーん
じゅーぐにちいぬ
うちいちいだき

*

あがいかぎ ぬゆいちゅら
ななむいぬ は一たよ

**

願い栄え お目受け栄え
大神で あられるので

*

願ったように
お目受けしたように
助けてくださる

**

こんなに長くなるまで
待ちに待っていた
今年の 美しい御年に
最高神を 鳴響まそう
美しい隠居と
大神たちが
助けてくださるので
最高神を 鳴響まそう
美しい隠居の 美しい綾は
愛しい妹たちへ 世継いでいよう
写らせろ 写らせろ
百代までも
千代までも 美しい七柱を
世継いでいよう
写りたい 写りたい
美しい隠居の 美しい綾は
愛しい妹たちへ 世継いでいよう

**

段々上がりの
美しい祝い

*

**

今日の日の夜の
夜が明けるまで
明日の 太陽が
昇るまで

*

美しい綾語をして
美しい踊りをして
神を 名揚げよう

**

十日四日の
お月のように
十五日の
お月のように

*

上がる美しさ 昇る美しさ
七柱の 姥たち

**

- 8, きゅー みーりばまい ゆぬかぎさ
あちゃ みーりんまい ゆぬちゆらさ
*
ゆぬかぎさ
ゆぬちゆらさ
ななむいぬ は一た一
**
- 9, んきやんきやぬ
せんぷちいぬ
はだんから
*
かぎななむいとうどう
よはえるていーどう
たくりやー うらよー は一たよ
かぎななむいゆばー
うやちいちい んまちいちい
つふあんな ちいぎゅーとうい
んまがに一たん ゆちいぎやうとういどうよ
*
むむだいがみまい
せんだいがみまい かぎななむいゆどう
ゆーちいがしゅーらよ
ちいむすり んみすり
やぐみゅー なーぎでい
**
- 10, きゅーがゆーぬ
ゆぬあきいーきや
あちゃぬ ていだぬ
あがらまいきやー
*
かぎあやぐやひー
かぎぶどういやひー
やぐみゅー なーぎゅーら
**
- 11, ばんていが んまがどう
むむいが しいたんど
むちゅいんからよ
*
かぎななむいとうどう
よはえるていーどう
なしうかまいば
*
かぎななむいゆばー
うやちいちい んまちいちい
つふあんな ちいぎゅーとうい
んまがに一たん ゆちいぎゅーら
- 今日 見ても 同じ美しさ
明日 見ても 同じ清らさ
*
同じ美しさ
同じ清らさ
七杜の 姥たち
**
昔昔の
千祖父の
頃から
*
美しい七杜
世映えろと
企んで しよう 姥たち
美しい七杜は
親継ぎ 母継ぎ
子には 継いでいて
孫の根たちに 世継ぎをしていて
*
百代までも
千代までも 美しい七杜を
世継がしていよう
肝を揃え 胸を揃え
神を 名揚げよう
**
今日の日の夜の
夜が明けるまで
明日の 太陽が
昇るまで
*
美しい綾語をして
美しい踊りをして
神を 名揚げよう
**
私たちの 母が
お腹の 下に
持っていた頃から
*
美しい七杜と
世映えろと
産んでおられるので
*
美しい七杜は
親継ぎ 母継ぎ
子には 継いでいて
孫の根たちに 世継ぎをしよう

*
 むむだいがみまい
 せんだいがみまい かぎななむいゆどう
 ゆちいぎゆーらでい
 **
 1 2, うばるじいになつすどう
 かんばなう とうゆましゆーら
 *
 うばるじいになつすぬどう
 にがいばい うみうきばい
 ふやぐみ やらまいば
 *
 にがいまにやーんどう
 うみきまにやーんどう
 たしいきやふいさまいよ
 **

*
 百代までも
 千代までも 美しい七柱を
 世継いでいよう
 **
 大主加那志を
 最高神を 鳴響まそう
 *
 大主加那志が
 願い栄え お目受け栄え
 大神で あられるので
 *
 願ったように
 お目受けしたように
 助けてくださる
 **

4 節目は、インギョーシマに対する詞章である。この節だけ、囃子が「かんばなう とうゆ

まさ」になる。

5, シナママチィタニ (今蒔く種)

- 1, んなままちい たにぬどうよ
 さーさー (囃子。以下*で示す)
 じゅーがちいまちい あわぬどうよ
 さーさー
 よやていば よーやなうれ
 するいどう かぎさぬ
 ゆーやなうれ (囃子。以下**で示す)
- 2, たにぐやふだ うゆりばよ *
- すぢいぐやふだ うゆりばよ **
- 3, ふさとうりやぬ ふーていがー *
- あわたていぬ んみやいていがらよ **
- 4, ういがふさ とうゆさぎよ *
- あわぬふさ とうゆさぎよ **
- 5, んみゆいぬ ふーていがー *
- かいゆらぬ んみやいていがらよ **
- 6, しいだましちい ならばよ *
- まだましちい ゆーでいきゆらばよ **
- 7, びきりやたが えらまん *
- あうくばら いでいーきや **
- 8, ぶなりやたが どうちいまん *
- かうしいばら いでいーきや **
- 9, やーんなとうい んちゆーとうい *
- あさぎがみ かつるーす **
- 1 0, なちいんなか あしやしー *
- ちいちいんなか ちいきうさみ **
- 1 1, うしゆぐむちい さまばんよ *

今蒔く 種が
 さーさー
 十月蒔く 粟が
 さーさー
 よやていば 世は稔れ
 揃えば 美しい
 世は稔れ
 種を間隔よく 植えると
 種の間が広くなく 植えると
 草取りが 来ると
 粟立てが いらっしやると
 その草 取り下げ
 粟の草 取り下げ
 収穫時期が 来ると
 刈り入れ時期が いらっしやると
 数珠玉のように 稔っている
 真玉数珠のように よく出来ている
 男たちが ほんとうに
 担い棒のタコが 出来るまで
 女達が まったく
 頭に被るワラの跡が 出来るまで
 家にとって 満たして
 アサギ家まで 入っていて
 真夏に 働いて
 月真ん中 搗き収め
 御主貢物 であっても

- ていんぐむちい さまばんよ **
 1 2, あしゅやしぬ あまいやよ *
 ちいきうさみぬ ぬくつらよ **
 1 3, あわだーらや くささしよ *
 くみだーらや ひだっちゃし **
 1 4, あわぬんちい ちいふとういよ *
 んまんちい たりゆーとうい **
 1 5, ういがばき ばなんなよ *
 んまさばき ばなんなよ **
 1 6, ぶばまうば ちいかいしよ *
 ぶじゃさうば うとうむしよ **
 1 7, ぶばまうば ゆかぬいよ *
 ぶじゃさうば くじゃしちいよ **
 1 8, ぶばまんな うふざらよ *
 ぶじゃさんな ゆなうしいよ **
 1 9, ゆるなんか むらしばよ *
 ひるやうか むらしばよ **
 2 0, したからや ばきやがりよ *
 ういからや むらすいよ **
 2 1, ふあーばまい ひならんよ *
 ちいぎばまい むつとうどう ひならんよ
 さーさー
 よやていば よーやなうれ
 するいどう かぎさぬ
 ゆーやなうれ
 なうらせ
 なうらせ
 なうらせ

最後の囃子の部分の「なうらせ」は、3回になっ
 ている。本来はイビ向かって、ウドウヌ（御
 殿）では左右に分かれ、「交互歌唱法」で謡う。

6, ウフラダチィ イサマヤ (大浦村 イサマヤ)

- 1, うふらだしい いさまやとう
 よーい (囃子。以下、*で示す)
 まばらだちい かぬ びきりやとう
 2, いさまやとう かぬ びきりやとう *
 なうからぬ うやこが
 3, かんびていちい うやこびやーい *
 いびびていちい うやこびやーい
 4, かんびていちいがみやー あらん *
 いびびていちいがみやー あらん
 5, うふらだちい ばたけん *
 まばらだちい ばたけん
 6, ななそます あきゆーとうい *

天貢物 であっても
 働いての 余りは
 搦き収めの 残りは
 粟俵は 腰当てにして
 米俵で 隔てていて
 粟の神酒 作っていて
 美味しい神酒 垂れていて
 それが発酵する 頃には
 美味さ発酵する 頃には
 おばさんには 使いをやって
 おじさんには お供をして
 おばさんは 床の上
 おじさんは 一番座に
 おばさんには 大皿を
 おじさんには 世稔しを
 夜七日 盛ると
 昼八日 盛ると
 下からは 湧き上がり
 上からは 盛り添え
 食べても 減らない
 注いでも 全然 減らない
 さーさー
 よやていば 世は稔れ
 揃えば 美しい
 世は稔れ
 稔らせ
 稔らせ
 稔らせ

従って、「なうらせ」は偶数回になるのであるが、
 祭祀参加者が少ないので「斉唱」になった。

- やそこます あきゅーとうい
 7, ななそます しいたぬましん *
 やそこます そこぢいーんどう
 8, あかまみや いびゅーとうい *
 まどうはだや いびゅーとうい
 9, うぬまみぬ でいきゅーりば *
 まどうはだぬ でいきゅーりば
 10, とうゆていはだ いびゅーりば *
 たらいはだ いびゅーりば
 11, うりゅーむいぬ うやくちや *
 まみむいぬ うやくちや
 12, またなうらば うやくそー *
 やーになうらば ぴていちいそーでい

八十榊 開けていて
 七十榊 下の枡に
 八十榊 底地に
 赤豆は 植えていて
 マドゥハダ (赤豆) は 植えていて
 その豆が 出来ているので
 赤豆が 稔っている
 十年分 植えてあるので
 足りる分 植えてあるので
 それをも 椀ぐ 親戚だそう
 豆椀ぎの 親戚らしい
 また稔ったなら 一緒になろう
 来年稔ったなら 一つになろう

7, トウカユーカー (十日四日)

- 1, たうとうよーい (囃子。以下、*で示す)
 とうかゆーかぬ
 うちいちいだき
 かぎさー (囃子。以下、**で示す)
 じゅーぐにちいぬ
 うちいちいだきよー
 2, * あがいかぎ からまい **
 ぬゆいちゆら からまい
 3, * あがいていだ うみゆぶき **
 うすいうや うみゆぶき
 4, * んまていだぬ うみゆぶき **
 むちゃぎびーぬ うみゆぶきよ
 5, * うばるじいになつす なやぎゅーら **
 かんばなう とうゆまさ
 6, * ないかにう なやぎゅーら **
 うちやうぬしい なやぎゅーら
 7, * ばかばうになつす なやぎゅーら **
 んぬちいぬしい なやぎゅーら
 8, * んまぬはん うらまい **
 うふゆぬしい なやぎゅーら
 9, * ひやぢいがん なやぎゅーら **
 だやぢいぬし なやぎゅーら
 10, * ういらむい うらまい **
 ういかぬしい なやぎゅーら
 11, * なつう`あがん なやぎゅーら **
 ていっう`あぬしい なやぎゅーら
 12, * じゃらがんみ うらまい **
 いちゆぬぬしい なやぎゅーら
 13, * びぬはしゅーゆ なやぎゅーら **
 いちいぬぬしい なやぎゅーら
 14, * やまとうがん なやぎゅーら **

尊い
 十日四日の
 お月のように
 美しさ
 十五日の
 お月のように
 上がる美しさ であるので
 登る清ら であるので
 東太陽の お陰で
 被う親の お陰で
 母太陽の お陰で
 持ち上げ部の お陰で
 大主加那志を 名揚げよう
 最高神を 鳴響まそう
 ナイカニを 名揚げよう
 御帳簿の神を 名揚げよう
 若王加那志を 名揚げよう
 生命の主を 名揚げよう
 午の方に おられる
 大世主を 名揚げよう
 比屋神を 名揚げよう
 畑の神を 名揚げよう
 ウイラ柱に おられる
 大漁の神を 名揚げよう
 ナツヴァ神を 名揚げよう
 ティツヴァ主を 名揚げよう
 ジャラガ嶺に おられる
 糸音主を 名揚げよう
 亥の方の主を 名揚げよう
 風の神を 名揚げよう
 大和神を 名揚げよう

- | | | |
|-----|----------------------|--------------|
| | うじゃきぬしい なやぎゅーら | お酒主を 名揚げよう |
| 15, | * うふやいま うらまい ** | 大八重山に おられる |
| | はなぬぬしい なやぎゅーら | 端の主を 名揚げよう |
| 16, | * お一みかみ なやぎゅーら ** | 大御神 名揚げよう |
| | あみぬぬしい なやぎゅーら | 雨の主を 名揚げよう |
| 17, | * なかどうらん うらまい ** | 中取りに おられる |
| | ことなうい なやぎゅーら | 事直りを 名揚げよう |
| 18, | * まいやまん うらまい ** | 前山に おられる |
| | うふやぐみ なやぎゅーら | 大神を 名揚げよう |
| 19, | * うっちいきん うらまい ** | ウツヂイキに おられる |
| | あぢいぬしゅーゆ なやぎゅーら | 按司主を 名揚げよう |
| 20, | * びっしむい うらまい ** | 広瀬杜に おられる |
| | かりゅーしいぬしい なやぎゅーら | 嘉例吉主を 名揚げよう |
| 21, | * しらかぶーん うらまい ** | 白川湾に おられる |
| | くみぬぬしい なやぎゅーら | 米の主を 名揚げよう |
| 22, | * にしびしゅーゆ なやぎゅーら ** | 西銘主を 名揚げよう |
| | うふやぐみゅー なやぎゅーら | 大神を 名揚げよう |
| 23, | * あがいじゃーん うらまい ** | 東座に おられる |
| | うふやぐみゅー なやぎゅーら | 大神を 名揚げよう |
| 24, | * うふやいま うらまい ** | 大八重山に おられる |
| | うむとうがん なやぎゅーら | オモト神を 名揚げよう |
| 25, | * うふとうがん なやぎゅーら ** | 大渡神を 名揚げよう |
| | うふやぐみゅー なやぎゅーら | 大神を 名揚げよう |
| 26, | * かぎはまん うらまい ** | 美しい浜に おられる |
| | うふやぐみゅー なやぎゅーら | 大神を 名揚げよう |
| 27, | * いちいちむい うらまい ** | 五つ杜に おられる |
| | まんちいぬしい なやぎゅーら | 真道主を 名揚げよう |
| 28, | * んちいだちいん うらまい ** | 道立ちに おられる |
| | うふやぐみゅー なやぎゅーら | 大神を 名揚げよう |
| 29, | * うふらだちい うらまい ** | 大浦多士に おられる |
| | まんちいぬしい なやぎゅーら | 真道主を 名揚げよう |
| 30, | * とうくがーんみ うらまい ** | トゥクガー嶺に おられる |
| | いちいぬぬしい なやぎゅーら | 風の神を 名揚げよう |
| 31, | * とうゆんみゃーん うらまい ** | 鳴響む庭に おられる |
| | きんみぬしい なやぎゅーら | 斤目主を 名揚げよう |
| 32, | * とうぬはしゅーや なやぎゅーら ** | 殿の方の主 名揚げよう |
| | きんくぬしい なやぎゅーら | 金庫の主を 名揚げよう |
| 33, | * とうくるぬしい なやぎゅーら ** | 所の主を 名揚げよう |
| | ふだみびーゆ なやぎゅーら | 踏み鎮め部を 名揚げよう |
| 34, | * かぎみぢいんな うらまい ** | 美しい水に おられる |
| | うふやぐみゅー なやぎゅーら | 大神を 名揚げよう |

カギニガイヌ ユーイヌ ブンビシブドゥイ (美しい祝いの盆居せ踊り)

- | | | |
|----|------------------|--------------|
| 1, | どうゆたがきゅーぬ | 自分たちの今日の |
| | は一たがきゅーぬ ゆらまいやよー | 姥達の今日の 寄り合いは |
| | にがいゆあがらさ | 願いを揚げよう |

ただしんがみゃー
あつほぢいんな
するまんよー
にがいゆあがらさ

2, かんむどう なーぎー
やぐみゃー なーぎー
なやぎゅーとうい
にがいゆあがらさ
がんにゅうさうまい
どうゆじゅーさうまい
ぶいでいすは一たーよー
にがいゆあがらさ
ちいむすり んみすり
やぐみゅー なーぎゅーらー
にがいゆあがらさ

3, うはるぢいがなっすどう
かんばなう とうゆましゅーら
にがいゆあがらさ
うはるぢい がなしいぬどう
うーみゆきばい ふやぐみやらまいば
にがいゆあがらさ
にがいまにゃーんどう
うみゆきまにゃーんどう
たしいきやふいさまいよー
ちいむすり んみすり
やぐみゅー なーぎゅーらー
やぐみゃー なーぎー
かんばな とうゆまさ

只では
<未詳>には
揃わないよ
願いを揚げよう
神を 名揚げ
神を 名揚げ
名揚げていて
願いを揚げよう
頑丈さをも
身体強さをも
祝おうお婆さん達
願いを揚げよう
肝を揃え 胸を揃え
神を 名揚げていよう
願いを揚げよう
大主加那志を
神上(最高神)を 鳴響まそう
願いを揚げよう
大主加那志が
お見受け栄え 大神であられるので
願いを揚げよう
願ったように
お見受けしたように
助けてくださる
肝を揃え 胸を揃え
神を 名揚げていよう
神を 名揚げ
神上(最高神)を 鳴響まそう

1 節目から3 節目までを参加者全員で座ってうたう。手拍子も踊りもしない。但し、囃子の「にがいゆあがらさ」は、踊らないので座ったまま謡う(本来は以下、同様に1~7の歌をくりかえして謡う。これで二日籠ったことにする)。歌が終了すると、供え物や祭祀器具・用具かたづける。荷物をウタキの出入りに運び、車に詰め込みウーンマヤーに向かう。

<祭祀儀礼場所③> ウーンマヤー(大母家)の二番座敷 午後4時30分
「チャーユーイ」
ウハルヂイウタキから戻ると、チャーユーイ

を行う。それから、一息入れ片付けに入る。

「片付け」

祭祀に用いた、ナカジュフー、バカス、ツスカニビン、ダイ、ダイサカヂイチイなどを水で洗い、布で拭き仕舞う。ナカバイ・アーグシンマヌトウム・ウーンマヌトウム等3人が揃っていた頃は、主にその3人が片づけをやっていたが、現在は人数が少ないので全員で片づけを行う。片づけ終了後、ウーンマ以外各自家路につく。この頃午後5時30分である。

以上で、ウカディダミグムイの終了となる。

4. 最後に一祭祀の目的

先述したように、ユージュムイ儀礼には、ウカディダミグムイの他に、ムツダミグムイ（麦のための籠り）、ウフユダミグムイ（大世のための籠り）、シーダミ・ハナダミグムイ（芋・木綿花のための籠り）など四つの籠りがあるが、それらはそれぞれ春と秋に行われる。春は一晩籠るが、秋は二晩籠る。ユージュムイはそれら以外にはユークイ祭がある。

麦・芋・木綿花をいった日常生活に欠かすことのできない物品が、豊穰でありますようにと祈るのである。ウカディダミグムイは風そのもの、つまり自然現象に対し祈る。このことがウカディダミグムイの祭祀の特色である。

ウカディダミグムイの祭祀目的を現在では、一般的に「台風が来ないように願う」と説明するが、それは聞き手に対する単純明瞭な説明法で、煩瑣な説明を避けるためである。

風が人間に、そして作物に対して吹くように祈る。風が吹かなければ人間生活に支障をきたし、豆類などもとれないのである。

尚、ウカディダミニガイは、元島である池間島にはあるが、分村である佐良浜にない。これは何故そうなったかは不明であるが、村の事情によるであろう。

